

⑦小さく見える3号機 使うあてのない排気塔

水口埠頭の4号機の左側に小さく3号機の残骸が見える。中央にそびえるのは2つをつなぐ排気塔。右側にあるクレーン車も、ここでの作業を終え、現在はすでに別のところへ移動した。



2009.10.08 04:31:25

⑧クレーンのゴンドラ から作業員を送り込む

奥に見えるのは、4号機2号機の建屋の壁面。手前に見えるのは、クレーンのゴンドラ。作業員は100kgの重さのゴンドラから、4号機2号機の建屋の壁面に近づき、作業を行う。奥に見えるのは、クレーンのゴンドラ。作業員は100kgの重さのゴンドラから、4号機2号機の建屋の壁面に近づき、作業を行う。



⑤瓦礫の間を縫って 4号機建屋の入口へ

現在、作業員は瓦礫をかき払い、入口から4号機の建屋内部へ入っている。作業員は瓦礫をかき払い、入口から4号機の建屋内部へ入っている。作業員は瓦礫をかき払い、入口から4号機の建屋内部へ入っている。



⑥いまだ構内に 残る津波の爪あと

津波の爪あとが構内に残っている。津波の爪あとが構内に残っている。津波の爪あとが構内に残っている。津波の爪あとが構内に残っている。



②幅の広い道が完成 大型重機も通行可

原発1号機から4号機の正面をつなぐ、巨大な重機が通行可能な道が完成。左側から伸びる道路は、作業員が通行可能な道。右側の建物は、作業員が通行可能な道。



2009.10.08 04:31:25

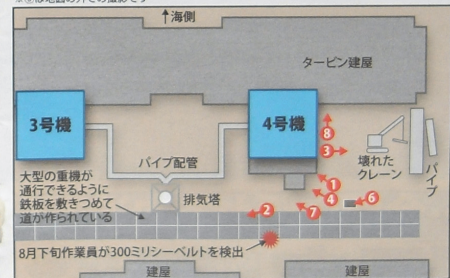
③移動バスのハンド ルにも「防護テープ」

作業員は原発本体と休憩棟の間をバスで移動するが、ハンドルやシートは放射線の付着を防ぐ養生テープで巻かれている。セネコンによってはバスの窓に鉛を貼り付けている社も。



4号機付近の現場MAP

※⑤は地図の外での撮影です



水も小便もダメ！でも、俺がやらねば誰がやる
「とにかく暑い。長袖・長ズボンの下に綿の靴下、手袋は3枚重ねてその上に防護服だから、全面マスクの口元を汗がたまらないうえ、そのままだと呼吸できないうえ、飲めない。最近少し涼しくなると、決死の覚悟で撮影してくれた土木作業員が作業の美態を明かしてくれた。『朝4時に起きて、（原発から20分）地点にある「トイレ」に着くのは6時前後。そこで防護服を着て、朝礼をするんだ。バスでJを出て、途中の大きなスーパーの駐車場で全面マスクを装着する。隙間ができないようにテープで目張りしてから、その後は水も飲めない、小便もできない。構内に長くいる人はおむつをしてる。仕事は瓦礫の撤去が多い。競争前にはちゃんと線量を計るんだ。作業時間は短い。1、2時間働くとバスで5分くらいのことにある休憩棟に戻る。そこは遮蔽されて線量が低いから、用を足したり水分摂ったりできるんだ。いちいち着替えるのは面倒だけど。』
移動する際も放射線管理士の指示に従う。昨日、このように計った。毎時300シーベルトのところがあった。ビックリした。そりゃ怖いけど、志願して来たわけだし、誰かがやらなきゃダメだから。Jレジンには売店もでき、労働環境は改善しつつある。爆発直後に活躍した放水車は役目を終え敷地内に放置され、壊れた配管や瓦礫の撤去も徐々に進む。このほど瓦礫置き場が設置された。遅々たる歩みではあるが、命かけの復旧作業は日々前進している。

④地下からの放射線 を防ぐ碎石と鉄板が!

線量を低くするため、構内では地面に厚い砂利を敷き詰め、その上に鉄板を置いていた。日差しの強い日にはこの鉄板が焼けつき、防護服で覆われた作業員が灼熱地獄に突き落とす。

